

Back Number

本論文は

世界経済評論 2024年 1/2月号

(2024年 1月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

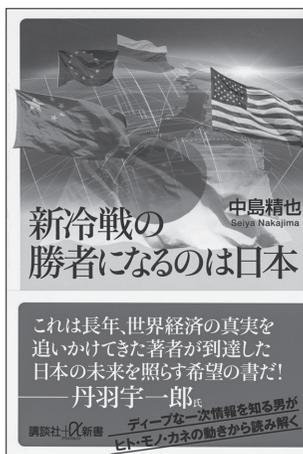
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン販売

新冷戦の勝者になるのは日本

東北大学名誉教授・ITI 客員研究員

田中 素香



[著者] 中島精也 (なかじま せいや)
 丹羽連絡事務所チーフエコノミスト
 [発行] 講談社+α新書, 2023年6月
 [判型] 新書判, 192頁
 [定価] 本体 900円+税

新冷戦時代の世界経済論である。習近平時代の中国と米国の対抗を軸に、日本、EU、ロシアを論じる。つくりは骨太だが分析は細部にわたり、また著者の長年の友人である世界各国のエコノミストへの事情聴取が活かされている。この著者ならではの叙述が随所に展開され、読み応えがある。

「ポスト冷戦の終焉」、「新冷戦で変わる世界経済」の2部構成、各4つの章からなる。

第1章「新冷戦を仕掛けた習近平」では、2017年第19回共産党大会における習の大演説を読み解く。「社会主義現代化強国」、つまり中国の世界覇権を掲げて米国への挑戦を宣言、それに応じて翌18年ベンス副大統領が新冷戦宣

言を発した。第2章「中国に対抗する米国」は米中貿易戦争や台湾対応を扱う。

第3章「プーチンとウクライナ戦争」と第4章「緊張度を増す日中関係」では、タイトルに沿って踏み込んだ分析を行う。野田政権の尖閣国有化への批判は注目点だ。

第Ⅱ部第5章「冷戦の終結とグローバリゼーションの進行」でポスト冷戦時代を振り返り、第6章「デフレからインフレへ」と合わせて、先進国の政治経済の転換を分析する。第7章「新冷戦時代の世界経済」は現状分析だ。ITで独り勝ちだが製造業が空洞化した米国はバイデン政権のインフレ抑制法などで繁栄回復へと向かう。他方、ロシアは戦争と経済制裁で動きが取れず、中国は不動産不況や人口減少、米国の先端技術供与制限、日欧の対米協調の下で孤立し内憂外患が続く。中露依存のEUの経済成長モデルは崩壊したという。

第8章「新冷戦は日本大復活の時代」は本書の総括である。台湾 TSMC 進出に触発された九州シリコンアイランド化、安倍政策による布石、円安、日本企業の国内回帰（リショアリング）など、ポスト冷戦期の経済空洞化を覆す好材料が揃いつつあり、日中の平和が維持されれば、日本は大復活に向かう。

本書の大きな構図は日米復活・欧中衰弱である。だが、人口減少や中国経済停滞の日本の輸出への跳ね返りなど、逆風もある。そうしたネガティブな現象を強調する思考が日本を金縛りにし「失われた30年」をもたらした。今日、日本企業をめぐる状況は大きく改善した。ポジティブな発想に切り替えて新しい日本を作るべき時期に来ている。実際に23年設備投資が復活、株価も大きく上昇した。このチャンスを、旧来のネガティブな思考で潰してはならない。本書は、日本人の日本と世界を見る目を転換させようとしている。

(たなか そこう)